

目 次

1. 普天間飛行場跡地利用計画の概要

1-1. 跡地利用計画の検討状況

- (1) 「全体計画の中間取りまとめ」と更新の検討..... 1-1
- (2) 緑地空間の形成手法の検討..... 1-3
- (3) 環境づくりに関する検討..... 1-4
- (4) 緑の保全・創出等に関する提案..... 1-5

2. 普天間飛行場跡地の自然・社会特性

2-1. 自然環境

- (1) 沖縄本島の地形・水系..... 2-1
- (2) 沖縄本島の地質・土壌..... 2-2
- (3) 普天間飛行場周辺の水と緑の構造..... 2-3
- (4) 普天間飛行場の地形の概観..... 2-4
- (5) 普天間飛行場の水脈等..... 2-5
- (6) 普天間飛行場の植生..... 2-6

2-2. 歴史・伝統・文化

- (1) 沖縄県の歴史と普天間飛行場に関する出来事..... 2-7
- (2) 琉球王国の交易と「万国津梁」..... 2-8
- (3) 普天間飛行場内に残る重要遺跡の分布と分類..... 2-9
- (4) 基地接収と周辺土地利用の変遷..... 2-11

2-3. 風土に根差した暮らしの文化

- (1) 本島北部と中南部地域の集落の発達の違い..... 2-15
- (2) 普天間飛行場の旧集落..... 2-16
- (3) 沖縄の伝統的な集落構造..... 2-16
- (4) 樹林による集落包囲..... 2-17
- (5) 旧集落から読み解く沖縄らしいまちづくり..... 2-18

2-4. 市民協働の状況

- (1) 市民協働の位置づけ..... 2-20
- (2) おもな活動の状況..... 2-20
- (3) コミュニティの創生・再生にむけた取り組み..... 2-24

2-5. 周辺土地利用の検討状況

- (1) 周辺市街地の現状と課題、その対策等の検討状況..... 2-25
- (2) 周辺の関連土地利用計画等の状況..... 2-29
- (3) 普天間飛行場と他施設・地区との面積比較..... 2-32

2-6. 国際交流・経済振興・平和希求等

- (1) 沖縄21世紀ビジョン（H22年3月）..... 2-33
- (2) 沖縄県アジア経済戦略構想（H27年9月）..... 2-34
- (3) 沖縄21世紀国際交流基本戦略（H27年3月）..... 2-34
- (4) 沖縄県の現状..... 2-35
- (5) 欧州産業クラスター先進事例..... 2-38

3. 跡地利用の中核として進める新しい公園づくりにかかる関連資料

3-1. 緑の環境を生かしたまちづくり

- (1) 環状都市戦略先進事例の概要..... 3-1
- (2) 産業振興・地域振興事例の概要..... 3-2
- (3) 国営公園における農地活用事例の概要..... 3-3

3-2. 感性産業を活用した環境づくり

- (1) 人工知能（AI）技術を活用したユニバーサル社会の実現..... 3-4

3-3. 多様なステークホルダーが関わる環境づくり

- (1) 新しい公共と事業者、地権者、住民の協働の事例..... 3-5

3-4. 防災機能

- (1) 広域防災拠点とは..... 3-6
- (2) 広域防災拠点の視点から見た計画地の立地..... 3-6
- (3) 沖縄県における広域防災に係る検討..... 3-7
- (4) 国際防災拠点の可能性..... 3-7

3-5. 国営公園

- (1) 国営公園制度の概要..... 3-8
- (2) 国営沖縄記念公園の概要..... 3-8
- (3) 大規模公園等のコンセプト事例..... 3-9
- (4) 県営平和祈念公園の概要..... 3-9

4. 公園配置検討にかかる敷地評価

4-1. 理念の基盤となる資源の評価

- (1) 植生・生物..... 4-1
- (2) 水系..... 4-1
- (3) 歴史資源..... 4-2
- (4) 評価..... 4-2

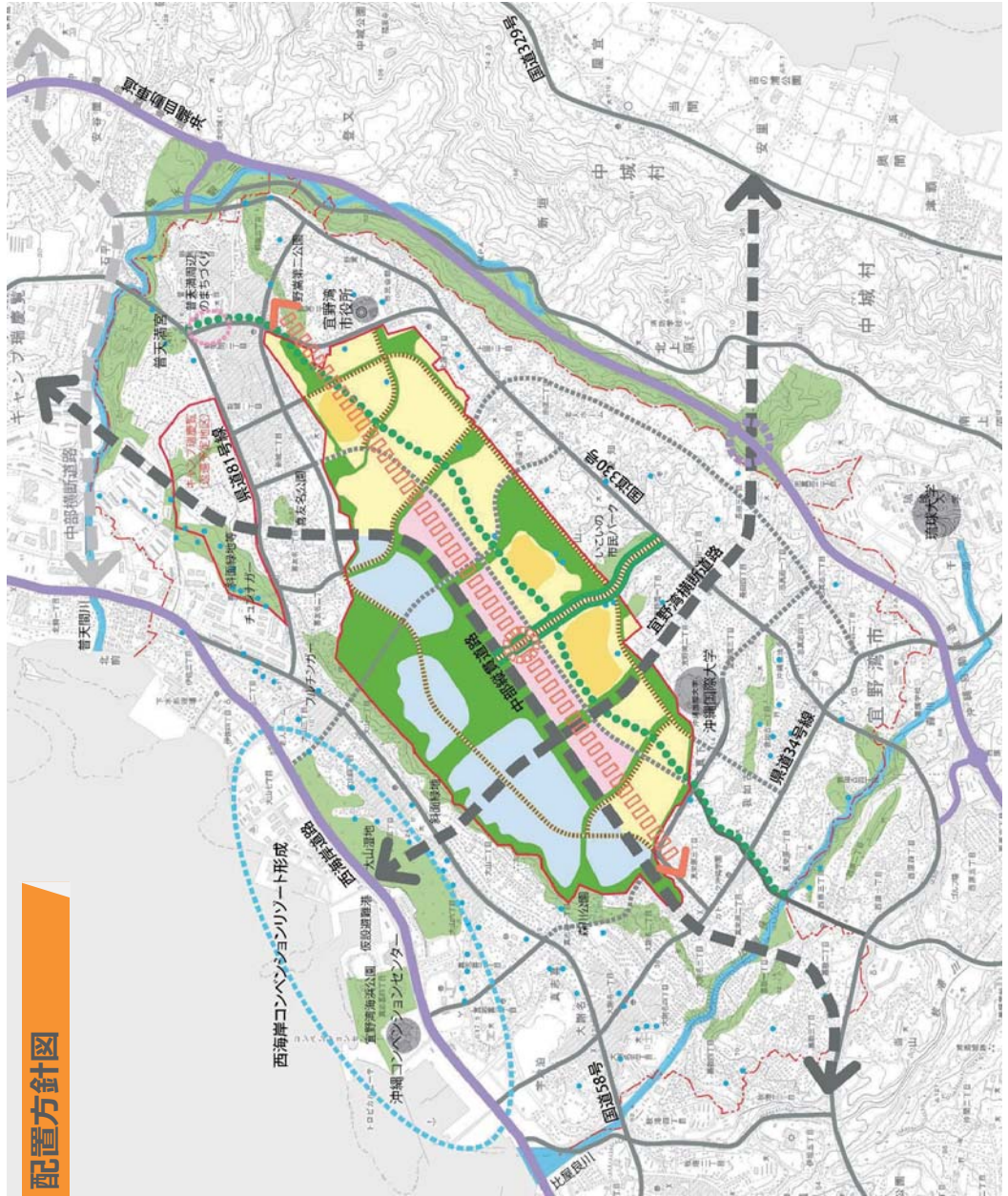
5. 普天間公園（仮称）懇談会の記録

1. 普天間飛行場跡地利用計画の概要

1-1-1. 跡地利用計画の検討状況

(1) 「全体計画の中間取りまとめ」と更新の検討

○「全体計画の中間取りまとめ」(平成 25 年 3 月)では下図のような配置方針図が示された。
 ○平成 27 年度現在、「普天間飛行場跡地利用計画策定全体会議」の意見を受けて、次頁のように配置方針図の更新が検討されている。



配置方針図

※「配置方針図」は、上位計画や現段階で推定される跡地の現況にもとづいて作成したものであり、土地利用や道路ルート・公園等の位置・範囲等は確定したものではありません。
 「配置方針図」は今後の取り組みを踏まえて更新していくことを前提としています。

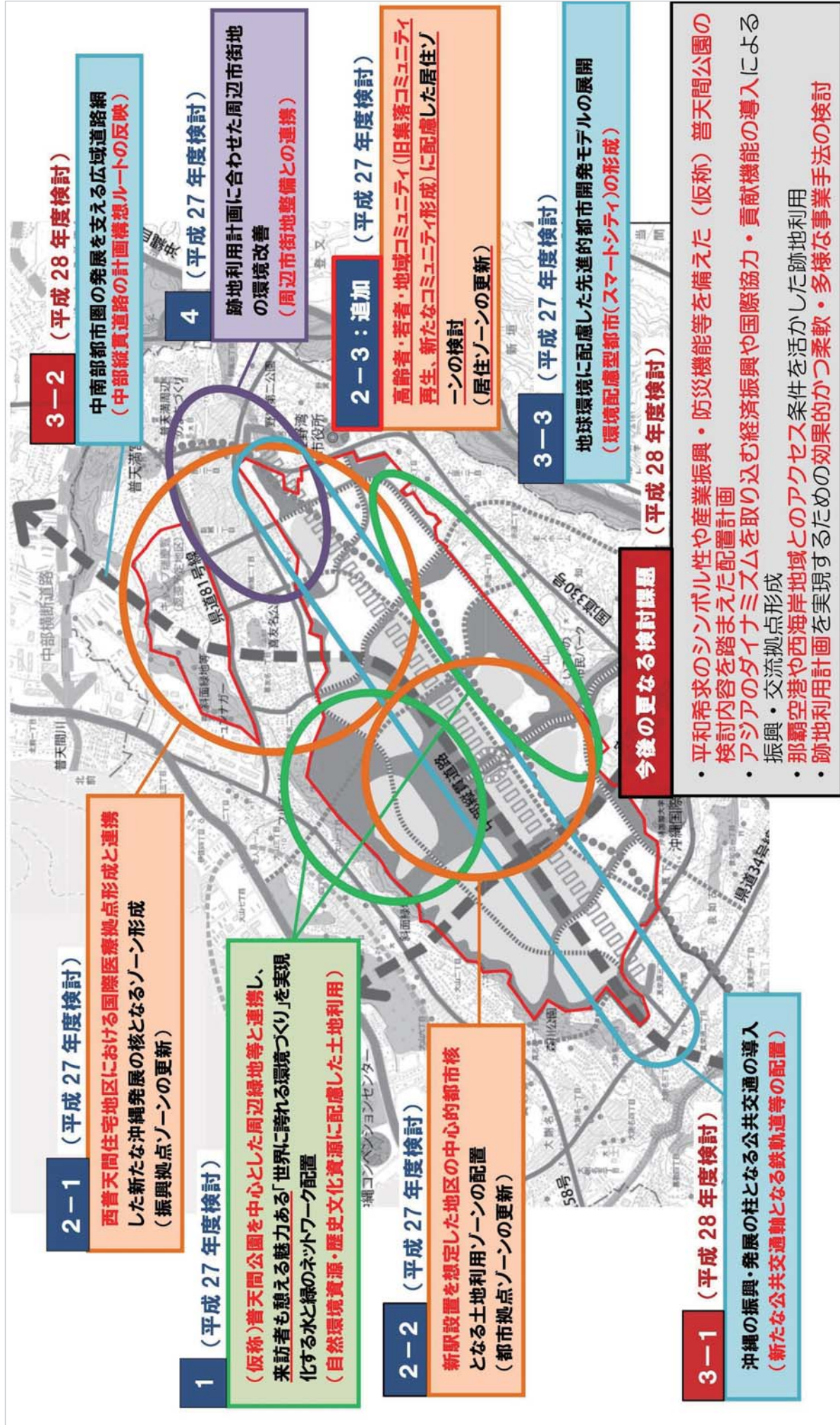
凡 例	
	振興拠点ゾーン
	都市拠点ゾーン
	居住ゾーン(●旧集落跡)
	公園
	周辺市街地の公園緑地等
	並松街道
	シンボル道路
	高規格幹線道路、地域高規格道路
	主要幹線道路(計画構想区間)
	都市幹線道路(既設区間/計画構想区間)
	地区幹線道路(既設区間/計画構想区間)
	公共交通軸(構想)
	湧水

※土地利用の各ゾーンには地域制限地(敷地内緑地等)が含まれています。



資料：沖縄県・宜野湾市(125)、「全体計画の中間取りまとめ」

■配置方針図の更新の検討（全体会議意見の反映）



(2) 緑地空間の形成手法の検討

H24年度までの調査

過年度検討結果における環境づくりに関する方針

H22年度 中南部都市圏駐留軍用地の緑地保全及び緑化方針策定調査報告書（沖縄県）

- 現状の関係系市町村の保全施策の整理
- 現存する緑+計画されている緑+緑化対象地を守る（倉倉）緑に中南部都市圏における緑のネットワークの方向性を提示
- 中南部都市圏駐留軍用地における緑地計画方針の提示

H23年度 普天間飛行場跡地利用計画方針策定調査報告書（広域緑地（普天間公園等）検討委員会編）（沖縄県）

- ランドスウェーブ評価要因である自然資源及び歴史資源の顕在化とその重ね合わせから得られるラング付け及びゾーニング
- 普天間飛行場跡地内に想定される構想の提示

H24年度 中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想（沖縄県 関係市町村）

- 6地区全体の広域の産業・機能の導入と連携した水と緑の構造・ネットワーク化
- 広域的拠点からの普天間飛行場跡地内の基本構造の明示（東側緑地と西側斜面緑地軸、大規模公園（約100ha）の配置、中央の都市軸）

H24年度 普天間飛行場跡地利用計画方針策定調査報告書「全体計画の中間とりまとめ」（沖縄県 宜野湾市）

- これまでの成果について踏襲しつつ、土地活用及び機能導入、都市基盤整備、周辺市街地の連携の計画を中間とりまとめとして整理
- 配置方針図を整理（指図拠点ゾーン・都市拠点ゾーン・居住ゾーン・公園）
- 今後の課題及び外部協賛を提示

H25年度調査

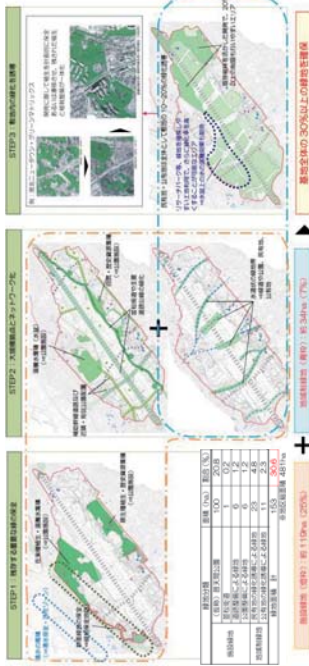
広域景観としてのあり方

- 普天間飛行場を取り巻く「斜面緑地～石灰岩台地～丘陵」の縦断方向の3つの階層軸と在来植生集積エリアを活かす広域景観形成を行う

- ① 瑞慶覧へと続く基地西側の「緑の屏風」として斜面緑地景観
- ② 普天間飛行場中央を縦断する中南部地域軸一の広かつ平坦な石灰岩台地
- ③ 基地東側の庶民の歴史・文化が根付いた丘陵地と谷が織りなす景観の保全
- ④ 重要な在来樹種が集積する西側と東側の緑地群

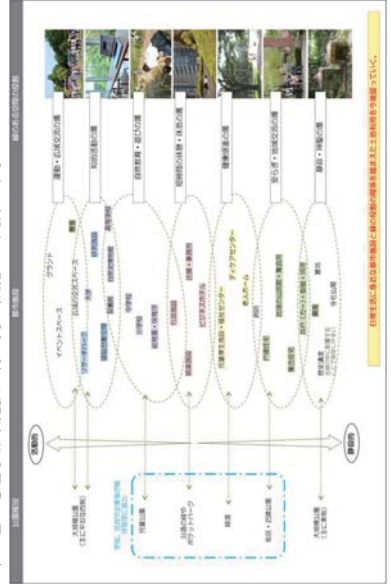
緑のストラクチャープラン

普天間飛行場跡地（481ha）の30%以上を確保するための、施設緑地及び地域希跡地のストラクチャープランを整理



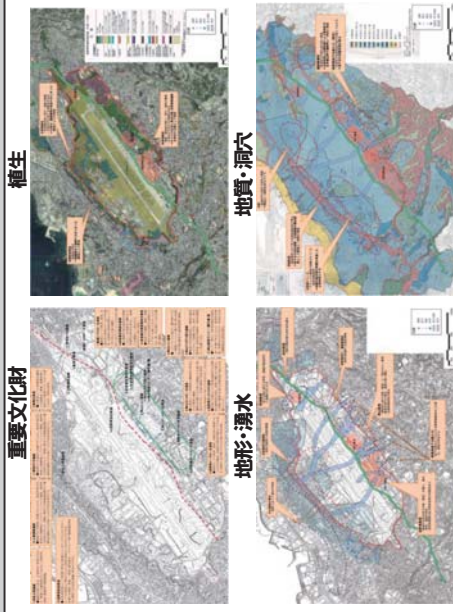
都市施設を緑によりネットワーク化させたまちづくりコンセプトダイアグラム

日常生活に身近な都市施設と緑の持つ機能との関係を示すダイアグラム



H26年度調査

各資源の重要箇所



広域エリア方針図（歴史・文化と緑と水のネットワーク）

【歴史】
普天間宮及び並松街道、神山集落をシンボルとして、庶民文化を顕ぼせる遺産のネットワークで結ぶ

【緑】
残存する在来植生を中心に、地形や水系、遺跡群を保全し、歴史文化・自然環境の拠点、同土をネットワークでつなぐ

【水】
エリア全体で水の流れや水が活かされていることを感じさせるネットワークを形成

地形が切り替わる比屋良川～普天間川の広域エリアにおけるネットワークを整理



重要文化財・自然環境資源の保全活用方策

重要文化財の重要度・保全に係る評価・活用方策（案）

重要文化財	重要度	保全	活用方策
普天間宮	高	完全保全	観光資源として活用
並松街道	中	維持管理	歴史文化の体験施設
神山集落	中	維持管理	伝統的集落の保全

自然環境の保全活用の方針（案）



- 周辺調査（外周現地調査、周辺類似特性の調査）
- 有識者ヒアリング（孝子亭、自然環境、緑地計画等）
- 既往文献・資料調査（文化財調査、自然環境調査・GISデータ等）

(3) 環境づくりに関する検討

○跡地利用計画の検討では、これまでに歴史・自然資源の保全と活用に向けて、各資源と緑が密接に関係していることを前提として、様々な資源の状況把握や重要度評価の手法が検討されている。

○具体的には、「普天間全体を①水②地形③緑④歴史の4層のインフラで骨格の重ね合わせにより緑の中のまちづくりを展開」することとして整理されている

④ 歴史：

地域文化・歴史のネットワークを形成
 一基地内に残存する数多くの遺跡、洞穴等の活用
 一旧集落構造や並松街道など失われた歴史を再生

③ 緑：

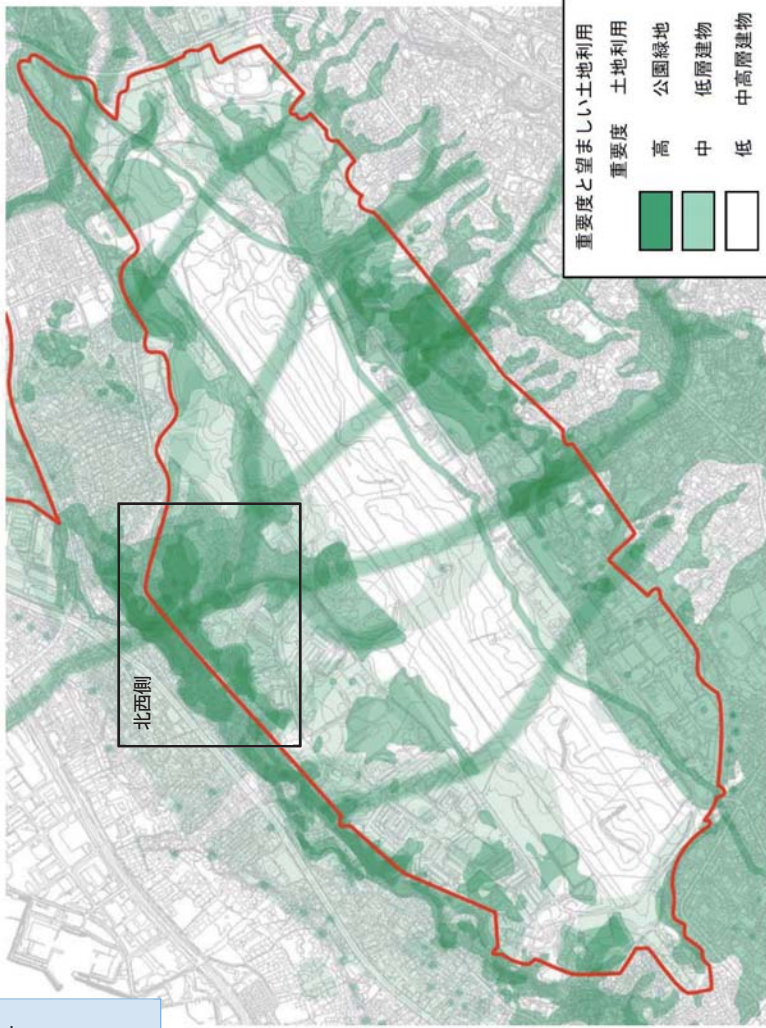
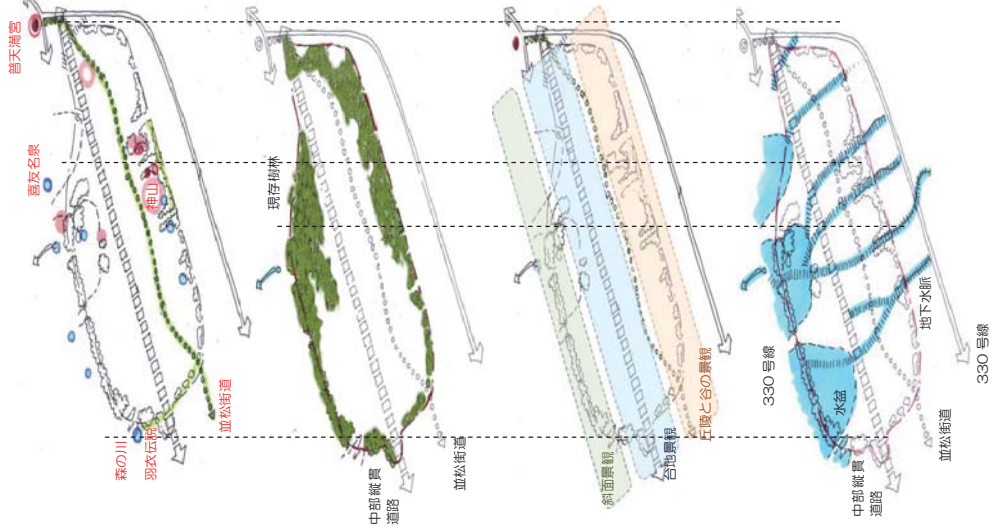
生態系ネットワークの形成／水源涵養緑地の形成
 一水脈との関連を有する既存樹生の活用
 一地盤制約のある水脈・水盆上の土地を緑化

② 地形（広域景観）：

普天間飛行場を取り巻く「斜面緑地～石灰岩台地～丘陵」の縦断方向の階層状の3軸を活かす広域景観形成

① 水：

豊富な地下水が地産地消できる水循環ネットワークの形成
 一地下水脈と水盆が張り廻らしている地下構造
 一水脈・水盆上の土地は地盤としての制約を受ける



■資源の重ね合わせの例（北西側）

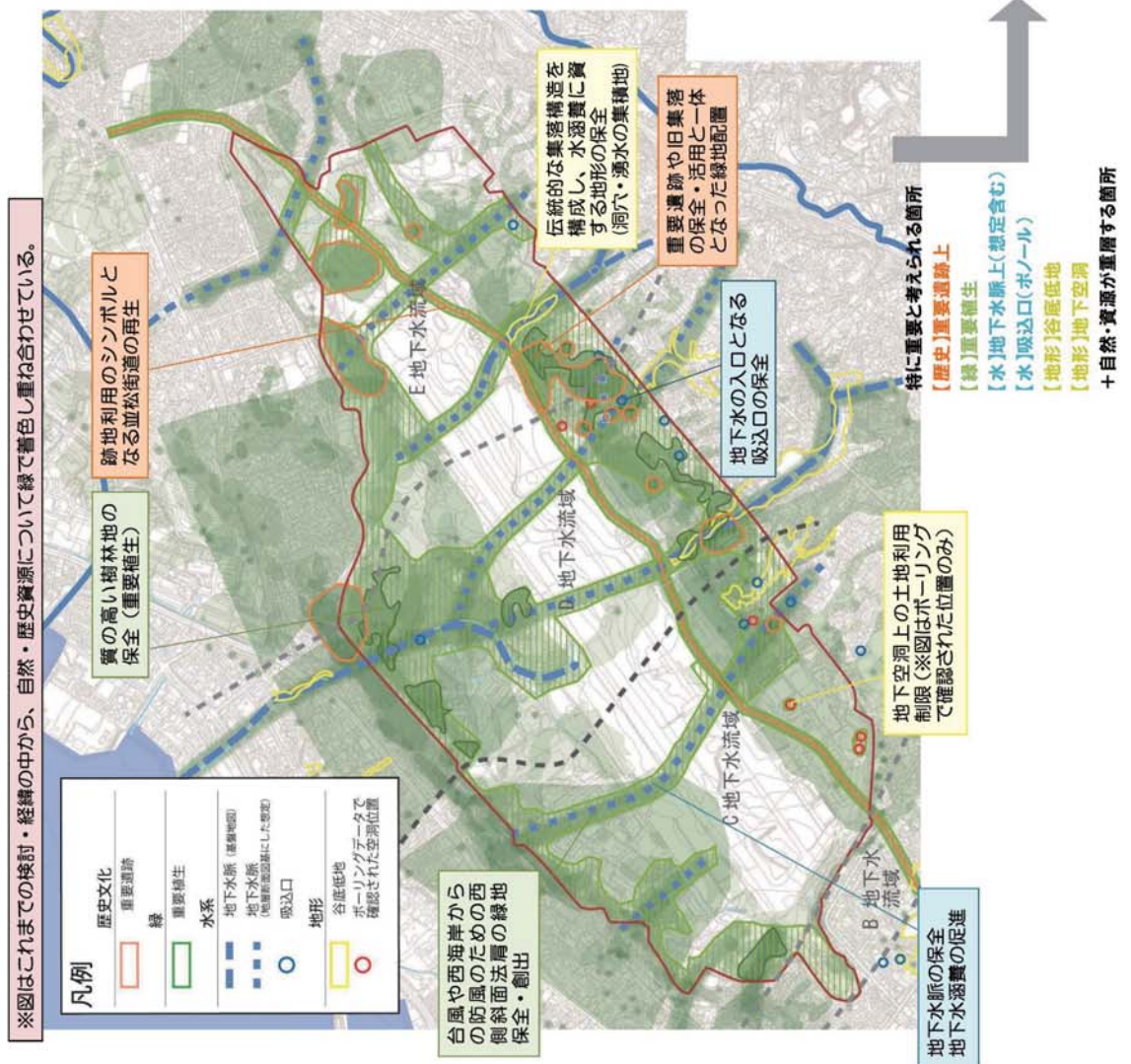
資源	区分	概要	高	中	低
遺跡	重要遺跡	古墳跡・古墳跡・古墳跡など直野原のかつての生活・文化を知る上で重要な遺跡（水遺跡）	●	●	●
	その他	その他の遺跡（文化財）	●	●	●
植生	在来植生	森林・樹林帯を形成する常緑樹林や落葉・常緑樹林等のかつての生活に重要な植生	●	●	●
	外来植生	上記のうち、特に重要な樹生や貴重生物の生息が想定される箇所	●	●	●
地形	丘陵斜面	広域景観の構成要素であり、歴史・自然資源が集積する	●	●	●
	溶岩凹地	地下水脈の入口であり、樹林帯等による涵養促進が望ましい	●	●	●
	地下空洞	建築物等による影響を十分考慮する必要がある	●	●	●
	洞穴遺跡	建築物等による影響を十分考慮する必要がある	●	●	●
洞穴	自然洞穴・伝承地	自然洞穴および伝承地として周知・観光・埋没しているもの	●	●	●
	その他	地下空洞上の土地利用に十分配慮が必要	●	●	●
地下	地下水脈	水脈を有する地下構造・遺跡埋没とするとともに、樹林帯等に地下水脈の涵養する効果も期待している	●	●	●
	湧水	地下水脈からの湧出による水脈・水盆上の土地は地盤（水）に制約を受ける	●	●	●
水系	水盆	地下水および地下構造に影響を与えない土地利用	●	●	●
	水脈	地下水および地下構造に影響を与えない土地利用	●	●	●

資料：沖繩県・宜野湾市（126）、「普天間飛行場跡地利用計画策定調査業務委託報告書」

資料：沖繩県・宜野湾市（127）、「普天間飛行場跡地利用計画策定調査業務委託報告書」

(4) 緑の保全・創出等に関する提案

○普天間飛行場跡地利用計画策定有識者検討会議 土地利用・機能導入部会では、これまでの検討のまとめとして、下図のように歴史・緑・地形・水の条件を反映した「緑の保全・創出が望ましい区域」緑化することが望ましい区域」等により、跡地利用計画における緑地面積の拡大を提案している。



資料：普天間飛行場跡地利用計画策定有識者検討会議 土地利用・機能導入部会 資料 (28年2月3日)

① 広域的な水と緑のネットワーク構造の形成

- ・南東側、北西側の既存緑地を主とした重要な歴史・自然環境資源が集積する区域において、緑の拠点を形成する。
- ・地下水脈や並松街道など拠点同士を繋ぐ緑の軸を形成する。また、地下水流域毎の湧出量等を考慮した緑地空間等の配置とする。
- ・水と緑のネットワーク形成にあたっては、公園緑地による担保とともに、民有地による緑化等と連携した計画とする。

② 歴史・自然環境資源と一体となった緑地空間

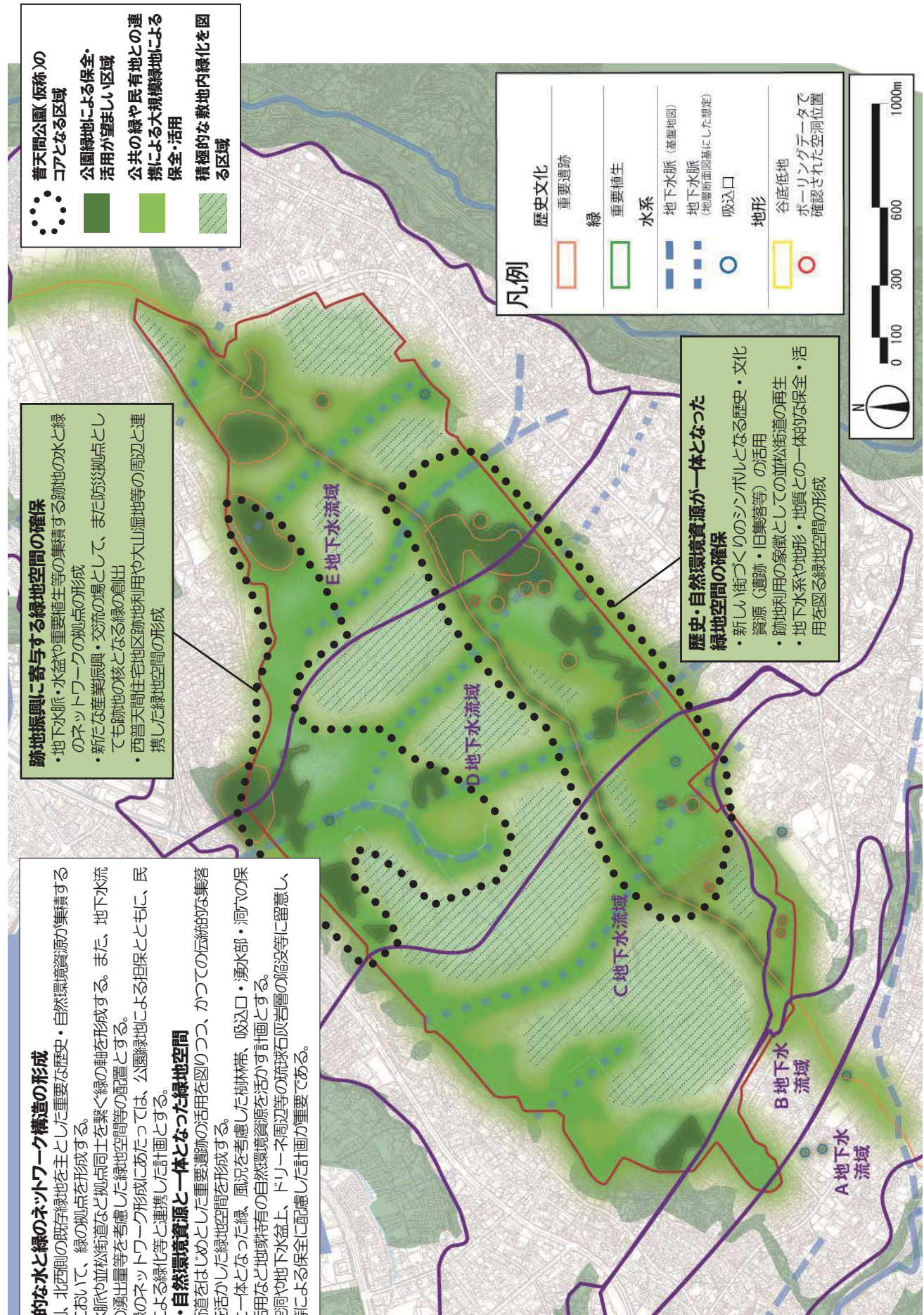
- ・並松街道をはじめとした重要遺跡の活用を図りつつ、かつての伝統的な集落構成を活かした緑地空間を形成する。
- ・地形など地域特有の自然環境資源を活かす計画とする。
- ・地下空洞や地下水益上、ドリリーネ周辺等の琉球石灰岩層の陥没等に留意し、緑地等による保全に配慮した計画が重要である。

跡地振興に寄与する緑地空間の確保

- ・地下水脈・水益や重要植生等の集積する跡地の水と緑のネットワークの拠点の形成
- ・新たな産業振興・交流の場として、また防災拠点としても跡地の核となる緑の拠出
- ・西普天間住宅地区跡地利用や大山畑地等の周辺と連携した緑地空間の形成

歴史・自然環境資源が一体となった緑地空間の確保

- ・新しい街づくりのシンボルとなる歴史・文化資源（遺跡・旧集落等）の活用
- ・跡地利用の象徴としての並松街道の再生
- ・地下水系や地形・地質との一体的な保全・活用を図る緑地空間の形成



- 普天間公園（仮称）のコアとなる区域
- 公園緑地による保全・活用が望ましい区域
- 公共の緑や民有地との連携による大規模緑地による保全・活用
- 積極的な敷地内緑化を図る区域

- 凡例
- 歴史文化
 - 重要遺跡
 - 緑
 - 重要植生
 - 水系
 - 地下水脈（基盤地図）
 - 地下水脈（地層断面図に基づいた想定）
 - 吸込口
 - 地形
 - 谷底低地
 - ボーリングデータで確認された空洞位置



2. 普天間飛行跡地の自然・社会特性

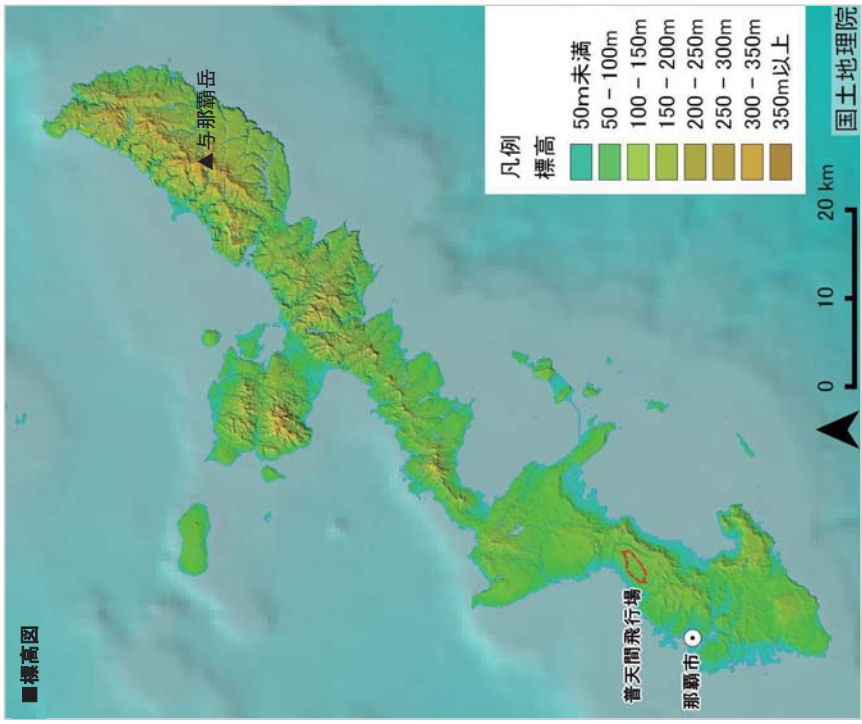
2-1. 自然環境

(1) 沖縄本島の地形・水系

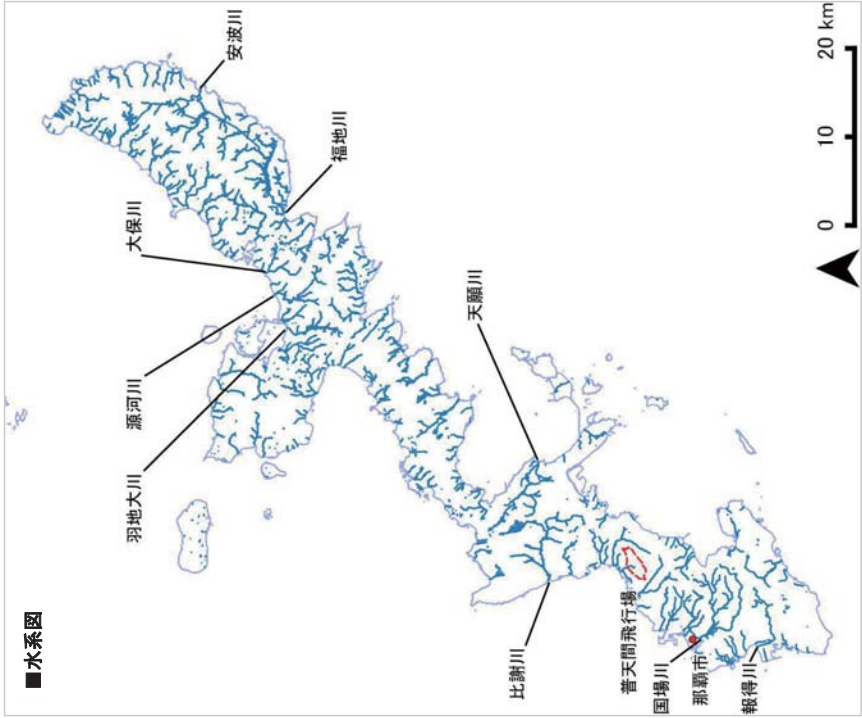
○ 沖縄本島の地形は、概ね恩納村仲泊とうるま市石川を結ぶ幅約 4km の地峡で南北に分けることができる。

○ 北部は古生層からなる急峻な山地型の地形となっており、国頭村にある与那覇岳（標高 503 メートル）を中心とする 300～400 メートルの脊梁山地が連なっている。このため小河川が多い。

○ 中南部は比較的平坦で小起伏の丘陵が連なる丘陵地形となっており、高いところでも 200 メートルは越えない。河川は少なく、隆起サンゴ礁の層を浸透した雨水が基盤の第三紀層との間から湧出した泉が各地で見られる。



資料：国土院色別標高図（陸域）、海上保安庁海洋情報部の資料（海域）を使用して作成



資料：国土院院数値地図 25000（空間データ基盤）を使用して作成
河川名は、県管理の二級河川のうち延長の長いもの 10 位までを示す

■ 沖縄県の二級河川

水系数	河川数	河川延長 km	流域面積 k m ²
北部	26	174.12 (4.35)	405.20 (10.13)
中部	8	68.00 (6.18)	161.54 (14.69)
南部	9	55.71 (3.98)	133.19 (9.51)
八重山	8	59.49 (5.95)	211.64 (21.16)
合計	51	357.8 (4.77)	911.57 (12.15)

平成 25 年 10 月 25 日現在
（ ）内は 1 河川平均の延長、流域面積
資料：沖縄県 HP「沖縄の河川資料室」

■ 沖縄県の代表的な湧水

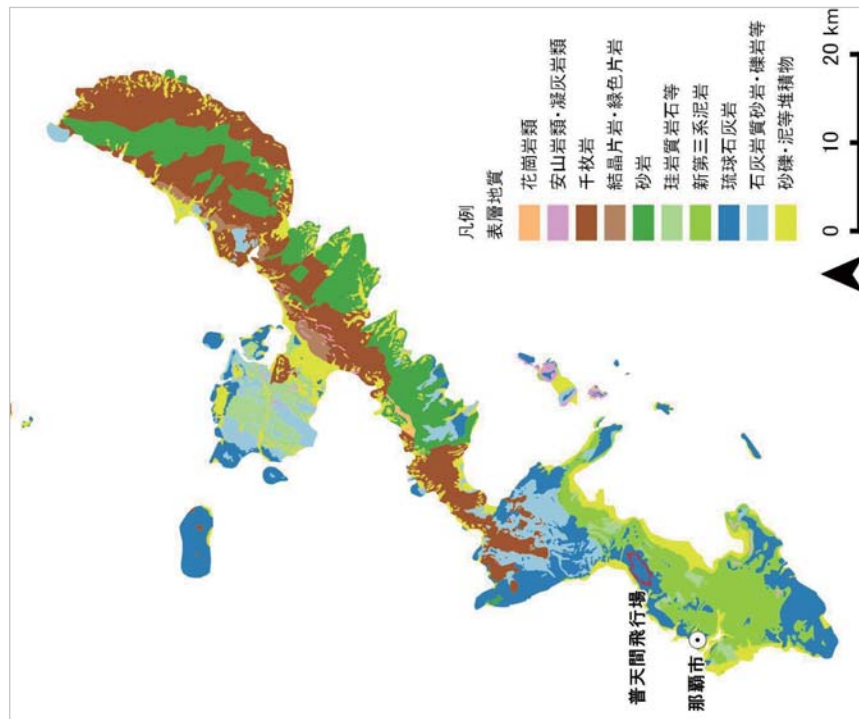
箇所数	割合
北部	15 15%
中部	28 27%
南部	50 49%
宮古	9 9%
八重山	1 1%
合計	103 100%

資料：環境省 HP「湧水保全ポータルサイト」に掲載されている
「沖縄県の代表的な湧水」を所在地別に計数して作成

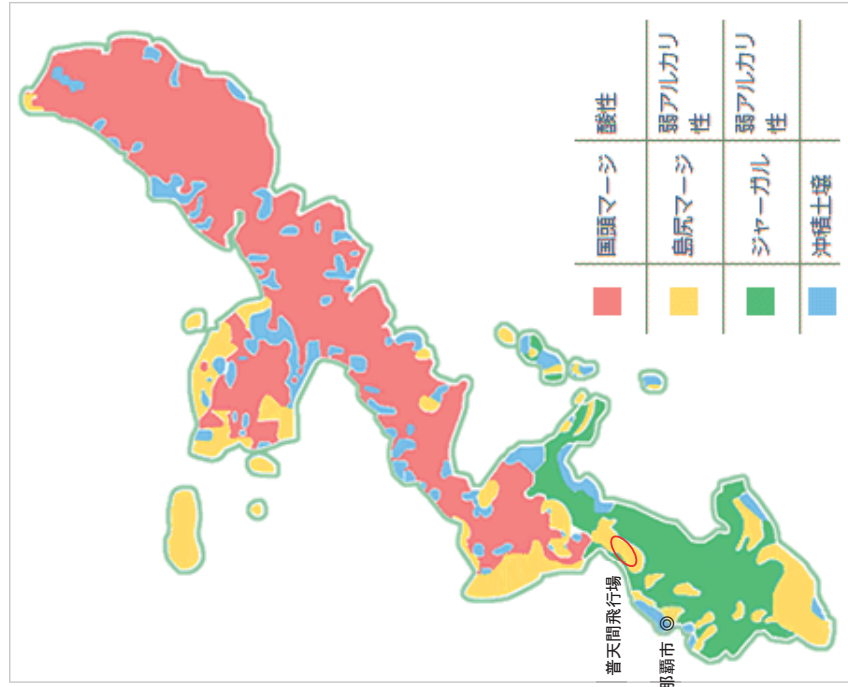
(2) 沖縄本島の地質・土壌

- 沖縄本島の北部は、古生代～中生代の砂岩、千枚岩などからなる地層が広く分布している。これが風化した土層が「国頭マージ」と呼ばれる。国頭マージ地帯は比較的急峻な山地をなしているため、水による侵食を受けやすい。
- 国頭マージは、明るい赤みがかかった色の酸性土壌であり、パイナップルやミカンなどの栽培に適している。
- 沖縄本島の中南部は、新第三紀を中心とする新生代の地層が広がっており、島尻層泥岩を基盤に、部分的に琉球石灰岩を主とする堆積物で覆われている。島尻層泥岩は「クチャ」、これが風化したものが「ジャーガル」、琉球石灰岩の風化土は「島尻マージ」と呼ばれる。
- ジャーガルは栄養分が多く、畑に適している。また島尻マージは保水力が低いため、これに粘土質のクチャを混ぜて土壌改良を行うことで畑作に適するようになる。

■表層地質図



■土壌図



■国頭マージ（嘉手納町久得）



■島尻マージ（読谷村座喜味）



■ジャーガル（南城市）



資料：国土調査による 20 万分の 1 土地分類基本調査（表層地質図）「沖縄県」を使用して作成

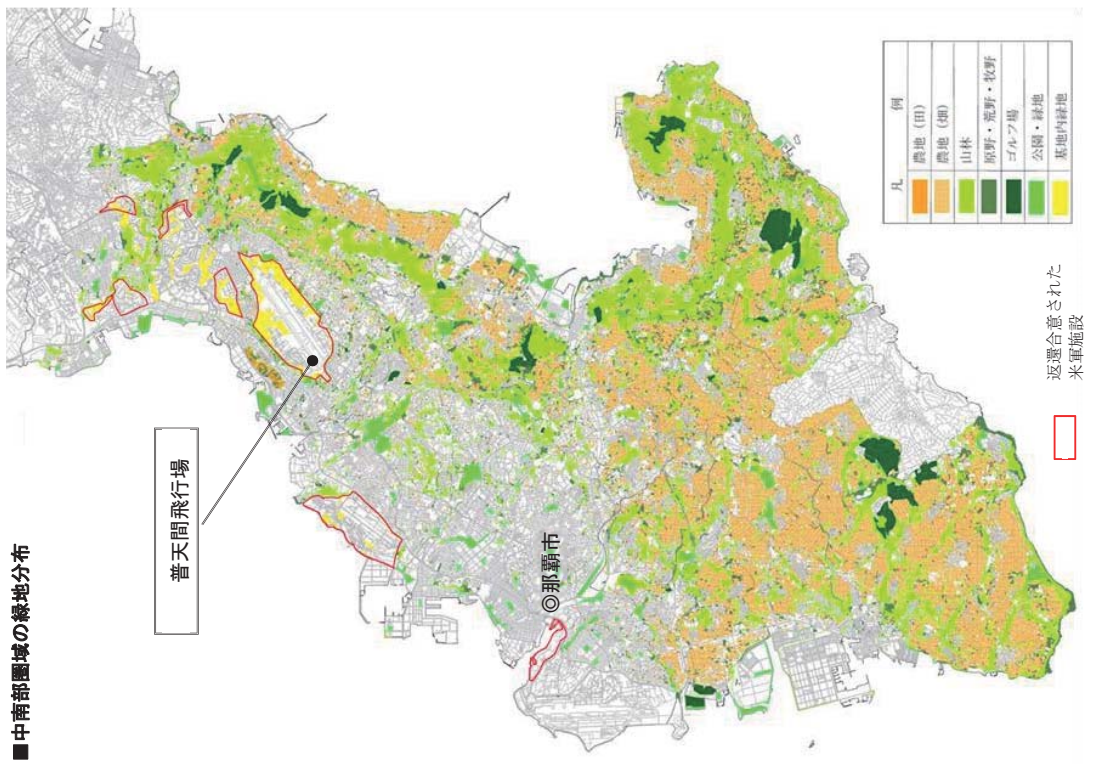
資料：沖縄総合事務局 HP「沖縄の自然環境」

資料：嘉手納町 HP、沖縄県農業研究センター HP

(3) 普天間飛行場周辺の水と緑の構造

○中南部圏域では、那覇市や浦添市、宜野湾市などを中心に市街化が進んでおり、まとまった緑が分布するのは、急斜面や丘陵、河川両側の斜面や尾根線などの限られたところである。

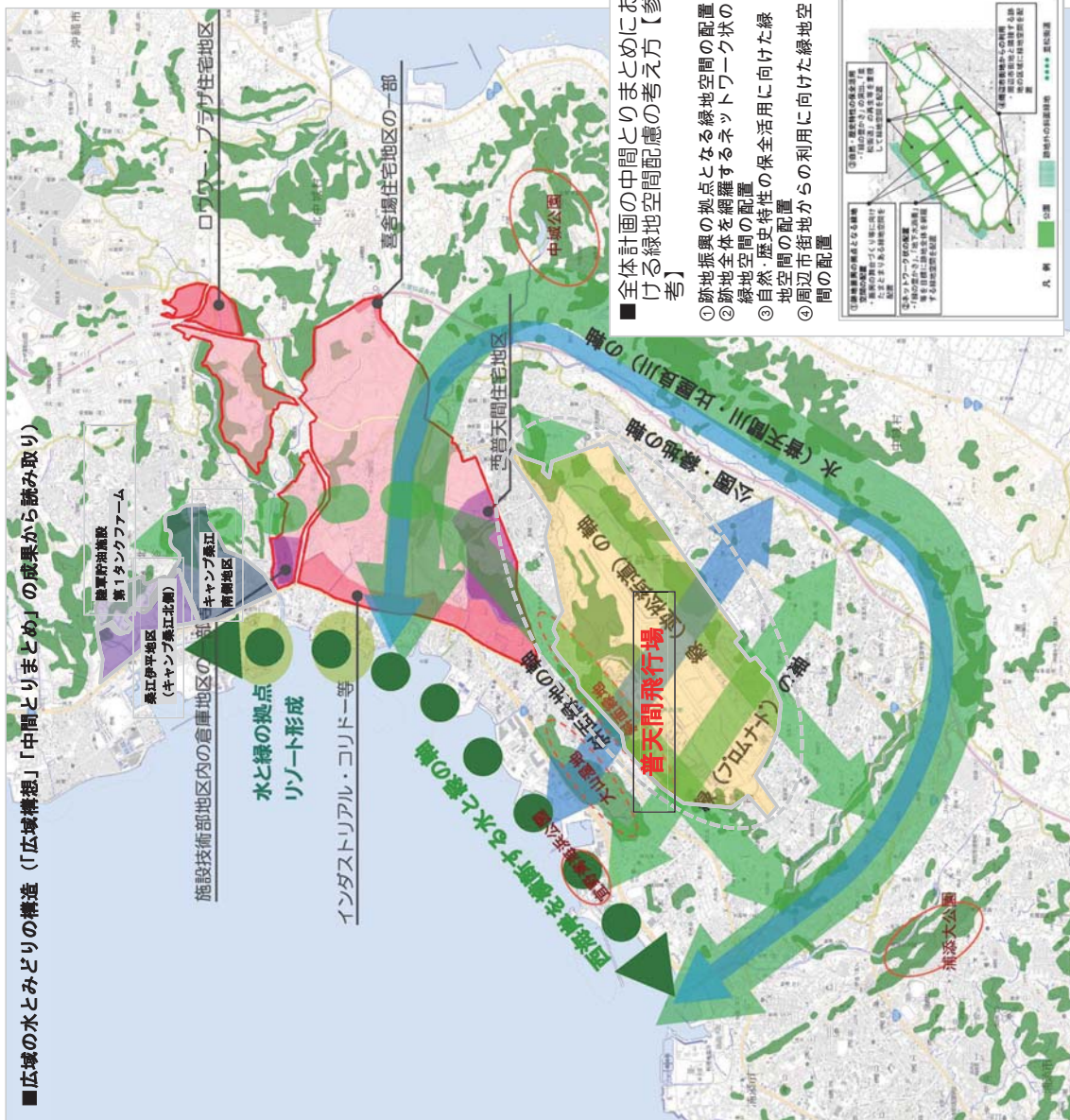
■中南部圏域の緑地分布



資料：沖縄県中南部都市圏緑地計画基礎調査報告書（暫定版）

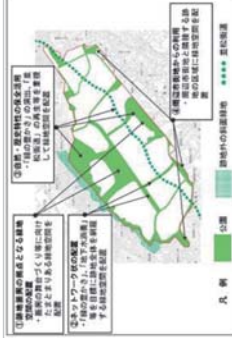
○跡地利用計画の検討においては、既往の調査を踏まえて、普天間飛行場を取り巻く河川による水と緑の軸、基地内外に跨る斜面緑地及び新たに計画される水と緑の軸によって構成される広域の水と緑の構造を下図のように整理している。

■広域の水とみどりの構造（「広域構想」「中間とりまとめ」の成果から読み取り）



■全体計画の中間とりまとめにおける緑地空間配慮の考え方【参考】

- ① 跡地振興の拠点となる緑地空間の配置
- ② 跡地全体を網羅するネットワーク状の緑地空間の配置
- ③ 自然・歴史特性の保全活用に向けた緑地空間の配置
- ④ 周辺市街地からの利用に向けた緑地空間の配置

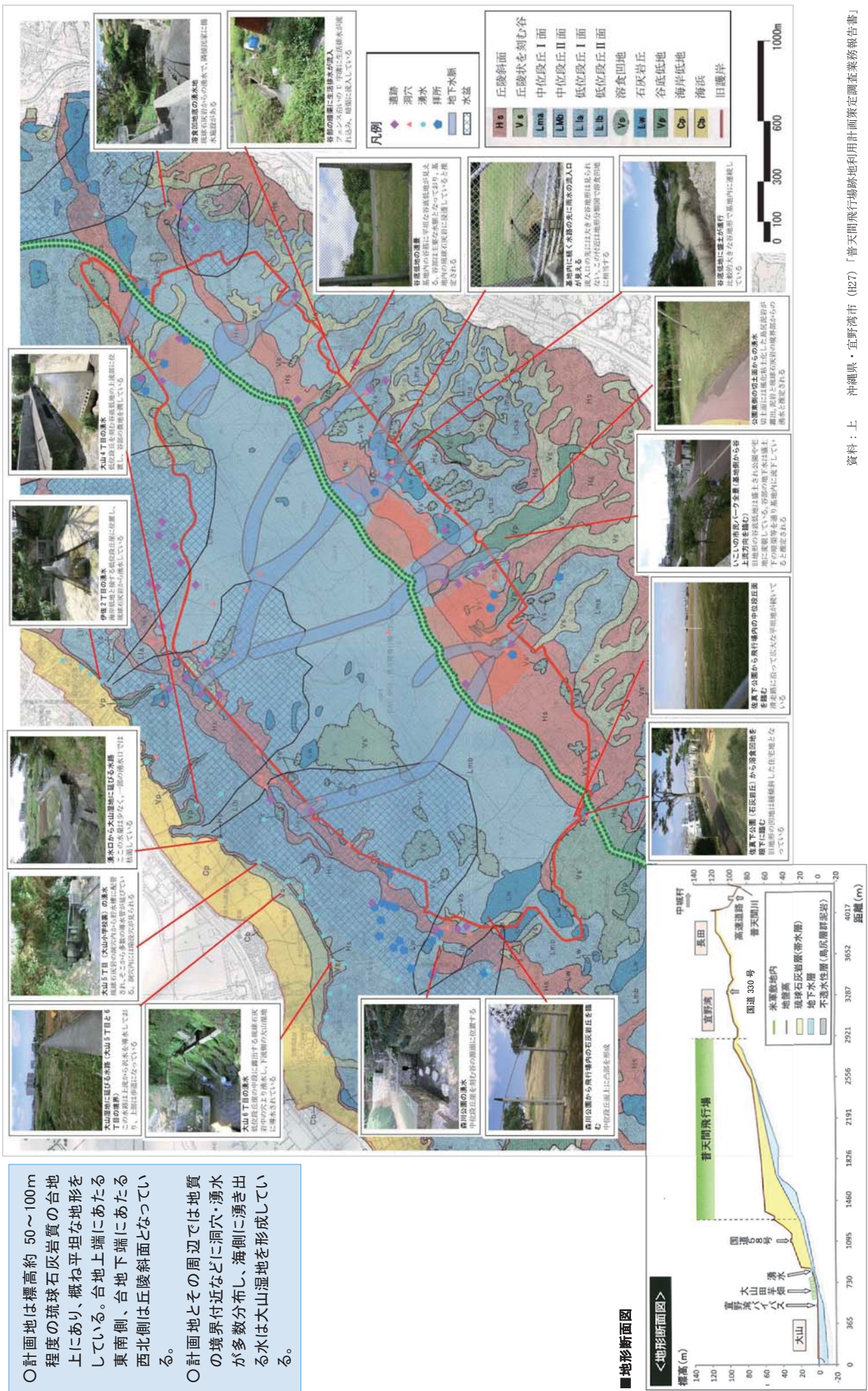


資料：沖縄県・宜野湾市 (H26) 「普天間飛行場跡地土地利用計画策定調査業務」

■ (4) 普天間飛行場の地形の概観

- 計画地は標高約 50～100m 程度の琉球石灰岩質の台地上にあり、概ね平坦な地形をしている。台地上端にあたる東南側、台地下端にあたる西北側は丘陵斜面となっている。
- 計画地とその周辺では地質の境界付近などに洞穴・湧水が多数分布し、海側に湧き出る水は大山湿地を形成している。

■ 昭和 20 年の地形分類図をベースとした地形および主要湧水位置図



資料：上 沖縄県・宜野湾市 (H27)「普天間飛行場跡地利用計画策定調査業務報告書」
 左 沖縄県・宜野湾市 (H24)「広域緑地（普天間公園等）の計画方針」

(5) 普天間飛行場の水脈等

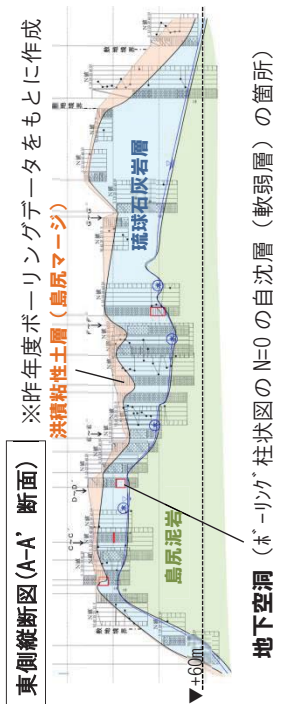
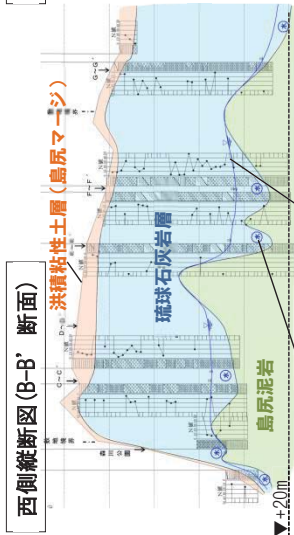
○有識者意見及びボーリングデータの分析、周辺調査結果より、普天間飛行場内においては特に**地下水脈・地下空洞上への基盤整備・土地利用の留意が必要**と考えられる。

○洞穴付近、地下水盆上、石灰岩層の厚い箇所等においては、公園・緑地等とする、大規模建築物は避ける等の配慮が望ましいと考えられる。

■推定される重要箇所および保全活用方向性

箇所	現状整理	有識者意見	保全活用方向性
全体	<ul style="list-style-type: none"> 縦断方向に丘陵斜面に2軸が、横断方向に谷地形が分布 	<p>ももとの地形や地質条件を利用しながら営まれてきた人の生活を残し、目に見える形で継承することは後世に残る財産となる</p>	<p>保全活用方向性 西側斜面と東側丘陵斜面を広域景観の構成要素として、地形と緑と一体的に保全</p>
b.北西側ドリーネ・地下水盆	<ul style="list-style-type: none"> 現況ではグラウンドや建物で整備されている 	<p>重量の重い建物を避けるべきで、公園等での利用は地盤上特に問題ない</p>	<p>地盤の陥没等の影響を十分考慮した土地利用とする</p>
c.西側斜面	<ul style="list-style-type: none"> 基地境界に沿って丘陵斜面地形が残る 	<p>—</p>	<p>基地内外に連続する斜面を在来植生や遺跡等と一体的に保全</p>
d.南東遺跡集積部・地下水脈入口	<ul style="list-style-type: none"> 丘陵と谷底地形が入り組み、地形区分の変化点付近に洞穴が集積 谷地及び谷地低地から地下水が流入 	<p>普天間飛行場内だけではなく、地下水を含めた水の流れを考えながら計画を策定すべき</p>	<p>谷底低地と丘陵斜面による微地形を、在来植生群や遺跡等と一体的に保全</p>
e.地下水脈上(想定)	<ul style="list-style-type: none"> 北西部で集約 	<p>地下水の流れを阻害しないことが最も重要</p>	<p>道路や建物構造へ十分配慮するとともに、緑地により地下水の涵養促進を図る</p>
f.地下空洞上	<ul style="list-style-type: none"> 深さ、規模を精査し、地下への影響のある建物や道路等整備は避ける。 	<p>空洞上や水盆上には重い構造物は避けるべき</p>	<p>深さ、規模を精査し、極力、緑地やオープンスペースなどにより保全を図る</p>

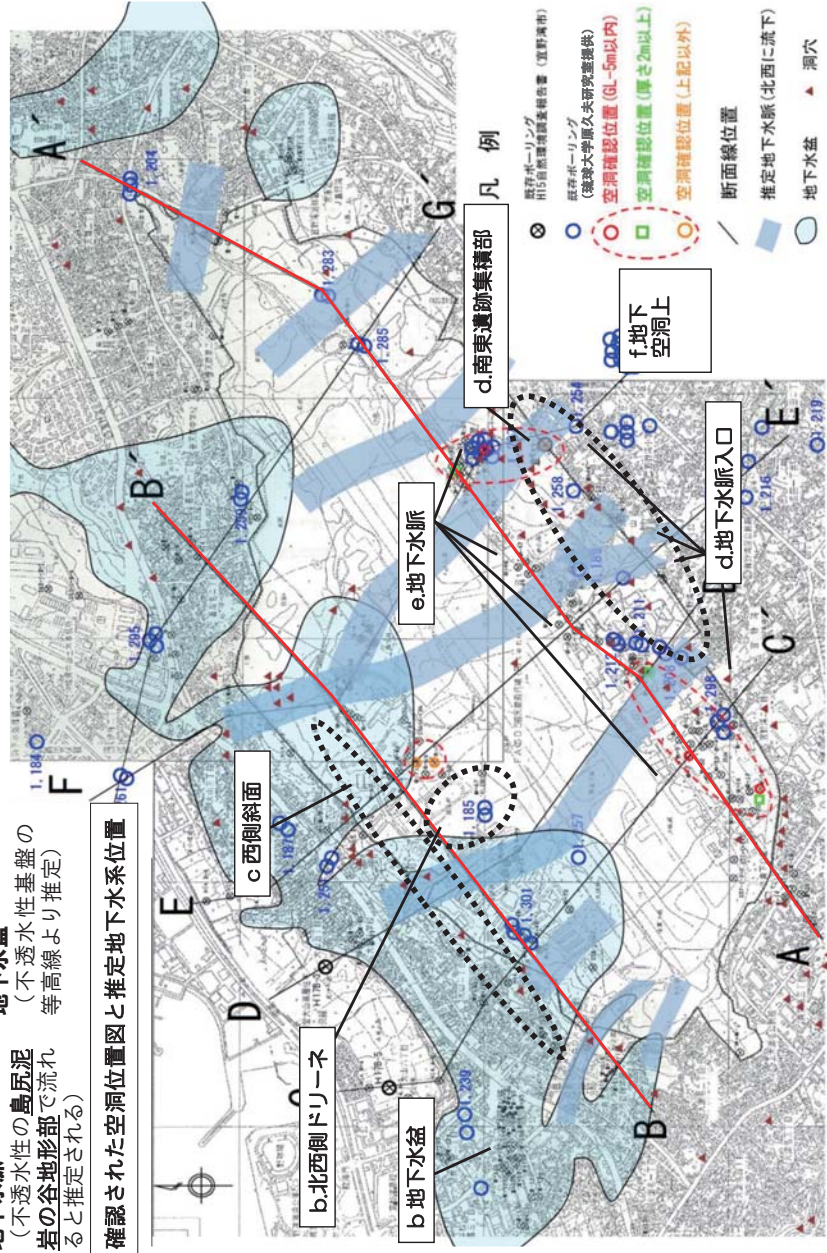
※本資料における地下水系位置は、既往資料及び周辺調査に基づき推定したものであり、現地において適宜調査・確認する必要がある。



地下水脈 (不透水性の島尻泥岩の谷地形部で流れると推定される)

地下水盆 (不透水性基盤の等高線より推定)

確認された空洞位置と推定地下水系位置



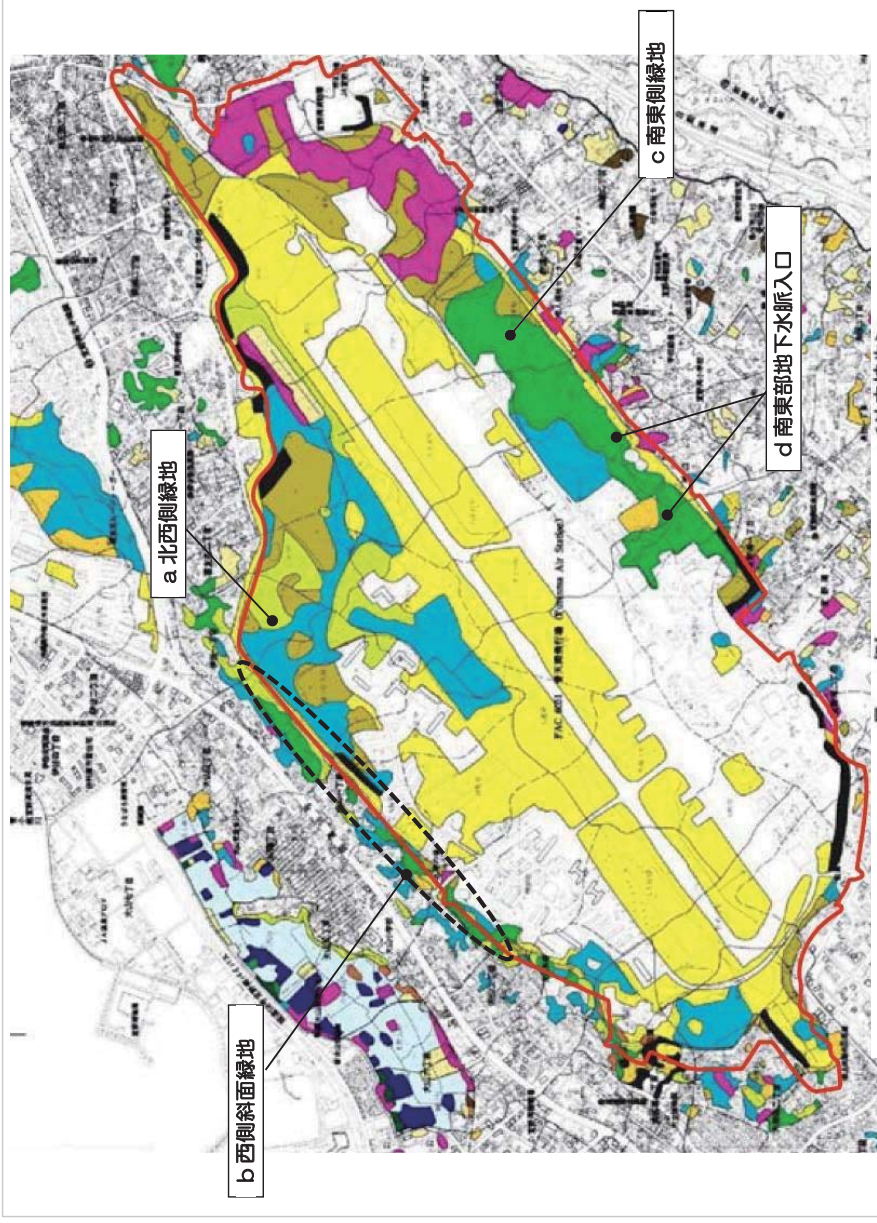
(6) 普天間飛行場の植生

- 有識者意見及び文献調査・周辺調査結果を踏まえ、普天間飛行場の植生において、**南東側は在来植生を主とした樹林地の質が高く、また北西側は貴重生物の生育可能性があり、この2か所の樹林地が特に重要だと考えらる。**
- 南側の樹林は相対的に遷移が進んでおり、水辺（東側・西側の外周部）について調査)における良好な環境は確認されなかった。

■推定される重要箇所および保全活用の方向性

箇所	現状整理	有識者意見	保全活用の方向性
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・普天間飛行場の北西及び南東側にまとまりのある在来植生群が分布する ・常緑広葉樹の先駆陽樹林帯に洞穴・遺跡が集積 ・大径木が分布する可能性がある 	<p>普天間飛行場の緑地は極相林ではなく遷移途上の段階である</p> <p>過去に耕作地だった場所に二次的に成立した樹林であると考える</p>	<p>在来植生を中心として既存の緑地を保全、及び活用</p> <p>大径木、重要種等を中心として、保全やまとまった緑地としての活用</p> <p>瑞穂まで連続的に保全・創出</p>
a.北西側緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・旧海岸の植生や崖地林が連続して残存する 	<p>過去に耕作地だった場所に二次的に成立した樹林であると考える</p>	<p>瑞穂まで連続的に保全・創出</p>
b.西側斜面緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・戦前の御嶽・墓地林が残り、洞穴・遺跡が集積 ・大径木が分布する可能性がある 	<p>基地内において質が高い緑地形的に斜面林の立地環境に近く、同様の樹林が存在する可能性がある</p>	<p>かつての生活に身近な縁、また洞穴・遺跡と一体的な縁として保全</p>
c.南東側緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・地下水脈の入口となる南東側基地の内側で湧水・緑地が存在・連続する 	<p>普天間飛行場における緑地の保全は、水源涵養という視点でも重要</p>	<p>地下水脈の涵養林として基地内外で地形と一体的に保全</p>
d.南東部地下水脈入口			

※本資料における重要箇所は、既往資料及び周辺調査に基づき抽出したものであり、現地において適宜調査・確認する必要がある。



凡例

＜在来植生＞		＜外来植生＞	
旧海岸の樹林	アナン群落	ドブ川の草本群落	ヤナボハレイラク群落、シロガヤリ群落
崖地林	イボクサギ群落	つつる植物群落	モシハシメガサ群落
加齢・基幹林	パルミチ群落	放棄仮防壁、崖地・遺跡地・広場・道路沿・駐車場の草本群落	ギンネム群落
常緑広葉樹の先駆陽樹林	ガジュマル・ハマミズヒの群落	放棄仮防壁、崖地・遺跡地の草本群落	オオアケボノ群落、オオハギ群落、オオハギ群落
つつる植物群落	ササユリ・オウゴン・ヤブニッケイ群落	放棄仮防壁、崖地・遺跡地の草本群落	オオハギ群落、オオハギ群落
放棄仮防壁、崖地・遺跡地の二次植生	ハゼノキ・アケボノ群落、シマヅクワ・アケボノ群落	人工林(樹林地)	モウソウ群落、ソウゲンシ群落
放棄タイム耕作田跡地の原生草本群落	オオハギ群落、オオハギ群落	耕作地	耕作地
その他の人為的遷移地の原生草本群落	アケボノ群落、オウゴン群落	タイム耕作田	タイム耕作田
人工林(樹林地)	ヘチマ・アケボノ群落、ススキ群落	人工草場(芝生地等)	人工草場(芝生地等)

(注)草地・遺跡等は空白とした